

学校だより



# 笑顔であいさつ

藤沢市立滝の沢中学校

2022. 3. 1

第12号

〒252-0816 神奈川県藤沢市遠藤 699 番地の 3 Tel. 0466-87-9148

<http://www1.fujisawa-kng.ed.jp/jtaki/>

## チャレンジすることが大切！～北京オリンピックから～

冬季オリンピック北京大会が20日夜、閉会式が行われ、17日間の祭典の幕が閉じられました。大会期間中にはフィギュアスケート女子のドーピング問題やスキージャンプのスーツ規定違反、スノーボードの不可解な採点など物議を醸す判定も相次ぎました。しかし、日本にとっては冬季オリンピック史上最多となる18個のメダルを獲得するなど、日本人の素晴らしい活躍が光った大会ではなかったかと思えます。ただ私がこの大会を通して心を動かされたのはメダルが取れた、取れなかったかではなく、それぞれの選手が競技に向かうチャレンジする姿勢でした。例えば、けがを抱えながら、フィギュアスケート男子で前人未踏の4回転半ジャンプに挑んだ羽生結弦選手、スノーボード女子ビッグエア決勝で高難度の大技を繰り出した岩渕麗楽選手、スキージャンプ混合団体で1回目のジャンプ後、スーツの規定違反で失格となりながらも2回目に挑んだ高梨沙羅選手。そして、今大会7レース目で金メダルに輝いたスピードスケートの高木美帆選手などです。彼らは予想外の失格やけが、体力の限界を感じながらも、壁に立ち向かい、記録や大技に挑戦したものの、思うような結果が出せず涙をのんだかもしれません。しかし、そんな選手の姿に感動したり、勇気付けられた人も多かったのではないかと思います。

先月の学校だよりでも「結果だけが全てではなく、目標に向かって日々努力していくプロセスこそが大切である。」という文章を書かせていただきました。今日は公立高校の合格発表の日です。第一志望校に合格した人もいれば、残念ながらそうではなかった人もいたことと思います。試験ですから、合否が出てしまうのは致し方ないことです。しかし、子どもたちの人生において高校入試の結果が全てではなく、ゴールでもありません。『人間万事塞翁が馬』です。果たして合格したことが本当に良いことなのか、不合格だったことが悪いことなのかは、今後の生き方によって決まってくるのではないのでしょうか。高校入学は長い人生の通過点です。「どこの高校で学ぶか」が大事なのではなく、「何をどのように学ぶか」が重要なのです。今回、残念な結果に終わってしまった生徒も自分が精一杯努力したのであれば、これまで頑張ってきた自分を認め、気持ちを切り替えて頑張りたいと思います。

## 卒業式にふさわしい最高の2曲～3/9卒業式～

あと10日足らずで卒業式を迎えます。子どもたち、そして保護者の皆様にとりましても素晴らしい門出の日となるよう、本校でも生徒自らが中心となり練習・準備を進めております。3年生の保護者の皆様には、先日プリントでもお知らせしたとおり、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年度に引き続き、参加人数制限や来校時の検温等、ご不便をおかけすることになるかと思いますが、何卒、ご理解・ご協力いただければ幸いです。

さて、今年の卒業式で3年生が歌う合唱曲は『旅立ちの日に』と『群青』です。この2曲を式歌として職員と子どもたちが選んだことを私は大変うれしく思います。なぜなら、この2曲は中学生と日頃から共に過ごしていた学校現場にいる先生が作った曲だからです。『旅立ちの日に』は1991年3月、埼玉県秩父市立影森中学校の校長先生が当時、荒れていた学校をより良くするため「歌声の響く学校」にすることを目指し、その集大成として当時の卒業生のために音楽の先生と協同で作られた曲です。特に歌の2番の「意味もないいさかいに 泣いたあのととき 心かよったうれしさに 抱き合った日よ」という歌詞は子どもたちと学校生活を共に過ごしている教師だからこそ出てくる言葉ではないかと思えます。もう一つの『群青』は2013年に福島県南相馬市立小高中学校で卒業生と音楽の先生によって作られた曲です。東日本大震災の津波で同級生を亡くしたり、遠い疎開先から今もなお戻ってこない同級生などを想う気持

ちを綴った日記や作文、他愛もないおしゃべりなどを地道に音楽の先生が書き留めていき、それをつなぎ合わせて「群青」の歌詞が出来上がったと言われています。「きっとまた会おう あの町で会おう 僕らの約束は 消えはしない 群青の絆」という歌詞はふるさとの小高で再会を願う切なる思いが強く伝わってきます。卒業式当日、本校の卒業生たちも中学校3年間のそれぞれの思い出を、そんな思いの詰まった歌詞にのせて気持ちを込めて歌ってくれると信じています。

## 学校評議員会・学校評価委員会が行われました

2月18日(金)に学校評議員会・学校評価委員会が行われ、学校評価アンケート等について4名の評議員と3名のけやきの会本部役員の皆様から次のような貴重なご意見をいただきました。

- ・挨拶をしてくれる生徒が多く、外見上では気になるような生徒はいない感じがする。
- ・学校行事のやるやらないについては、学校側の考えを丁寧に説明する必要がある。
- ・コロナ禍で行事等の見直しが図られたが、教育活動を精選する良いチャンスととらえ、今後の活動に期待したい。
- ・先日、子どもたちが帰った後に先生方が教室を懸命に消毒されている様子を拝見した。本当にありがとうございました。

先日、「親はしつけをどうすればいいか。」という問いに対して「育児の神様」と呼ばれた小児科医の内藤寿七郎博士が答えた内容が読売新聞に次のように掲載されていました。

しつけは和裁用語で、本縫いする前に生地をくせ付けるため、弱い糸で縫うことから来る。「いい子にしようと思うあまり、強い糸で子どもの個性をきちきちに縫い付ける必要はないのです。しつけ糸のように優しくゆるやかに根気強く」。これも由来を知っておきたい言葉である。

子どもたちが義務教育を終了するまでに「躰糸」がとれ、自己決定できる大人になる素地ができるよう、今後も学校と家庭が協力していくことが大切だと考えております。「教育」とは“協育”とも言われます。ご家庭の協力、是非ともよろしく願います。

## 15年後の“なりたい自分”を考えてみよう！

2月2日、1年生では総合的な学習の時間にキャリア教育の一環として、パナソニックで働いている方が講師としてオンラインの出前授業を実施しました。そして、終了後のワークシートの「『15年後の“なりたい自分”』に向かって、『今から取り組むこと』や『チャレンジしたいこと』を考えて記入してください」という問いに対して次のように答えてくれる生徒がいました。



- ・人と関わる仕事(教育関連)がしたいので、人との関わりを大切にしていきたいことや積極的に発言するなどをこれから取り組んでいきたいです。
- ・何かをやるには「準備」がいると思う。今がちょうど準備の時間だと思うので、まずは今の自分に何ができるかを考えてみたい。でも、今、大切なのは健康でいることだと思う。
- ・人を笑顔にしたいから誰とでも話せるようになりたい。そのために積極的に前に出たり、意見を言っていきたい。

## いざというときに命を守る行動が取れるように！

2月22、25日の2日間、3年生は特別日課のプログラムとしてジュニア防災リーダー教室を実施しました。藤沢市の救命救急課、防災危機管理課、ならびに北消防署西部出張所の方々にご来校いただき、救命措置、起震車体験・応急担架訓練・濃煙体験訓練・消火器取扱訓練等をご指導いただきました。先日、NHKのニュースでも報道されていましたが、昨年5月に鎌倉市の中学校で男子バスケットボール部の練習中に顧問が倒れ、その場にいた部員たちが心臓マッサージと人工呼吸といった救命措置にあたり、一命をとりとめたということがありました。いざというときに命を守る行動が取れるように、このような実践が改めて重要だと感じました。



★**新年度の始業式・入学式は4/6(水)となります**